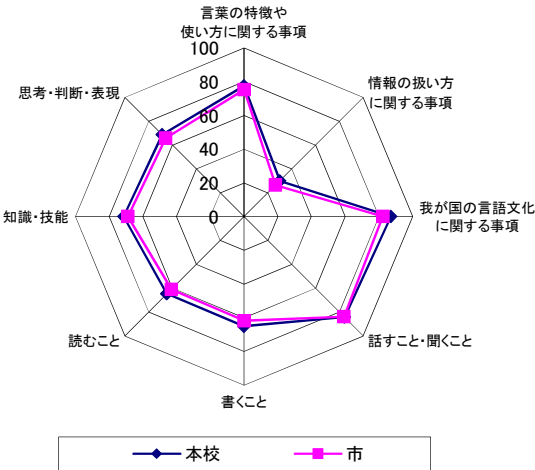


宇都宮市立陽南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.5	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	30.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化にに関する事項	87.1	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	84.3	83.9	84.2
	書くこと	65.0	61.7	64.5
	読むこと	64.8	60.9	61.0
観点別	知識・技能	71.4	68.8	70.3
	思考・判断・表現	68.8	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

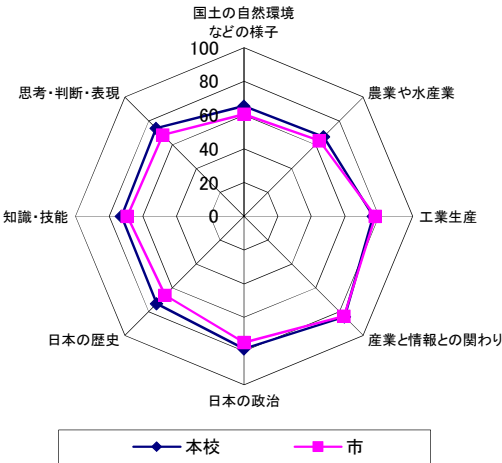
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○漢字の読み書きへの理解が市の平均より高い。宿題や自主学習、朝の学習を活用し、繰り返し練習したことによって成果が表れていると考えられる。 ●文と文との接続の関係についての正答率が、62.9%で市の平均より低い。逆接語の使い方の理解や、「一文目の終わりの五文字」などの答え方への理解について課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・順接や逆接など、文と文との前後関係から適切な接続語を選択する学習を行い、理解を深めていく。 ・授業の導入等で、既習漢字を繰り返し確認する活動を設け、更なる定着を図っていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○●説明的な文章を正しく読み取り、その中の情報と情報の関係について理解する設問において、市の平均より高い正答率ではあるが、目的に応じた言葉に整理してまとめることに課題が見られる。	・理科や社会科、総合的な学習の時間等も活用しながら、グラフや文章から得られる情報の読み取り活動を行い、自分の意見を適切に表現する指導を行っていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○語句の由来について関心があり、和語・漢語・外来語についての関心が高いと考えられる。	・ICT機器を積極的に取り入れながら、児童が関心をもって我が国の伝統的な言語文化の学習を行えるよう、教材教具の工夫をしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○インタビューの内容を捉える設問に対する校内正答率は87.1%で、市の平均正答率を3.3ポイント上回っている。	・学級活動や普段の生活の中でも、必要な事項や重要な内容は、要点をまとめながらメモを取るなどの指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べ高い。 ○報告文を書く設問では、目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する設問の校内正答率は、81.4%で市の平均正答率を8.9ポイント上回った。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている設問では、校内正答率は、65.7%で市の平均正答率を1.1ポイント下回った。	・文章を書く際に、読む人に伝わりやすくするために、内容のまとまりごとに段落を設けられるような指導を行っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べ高い。 ○全ての設問において市の正答率を上回っている。特に情報と情報との関係を理解し文章の情報を整理する設問では、平均回答率が市の平均を7.1ポイント上回っている。	・たくさんの情報の中から必要な情報を選択したり、情報と情報の関係を理解したりできるように、引き続き授業の中で指導をしていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.4	60.5	65.8
	農業や水産業	66.7	63.3	66.0
	工業生産	76.7	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	84.3	83.8	76.6
	日本の政治	78.6	74.9	74.1
	日本の歴史	73.2	66.3	68.3
観点別	知識・技能	72.7	69.3	71.4
	思考・判断・表現	73.9	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

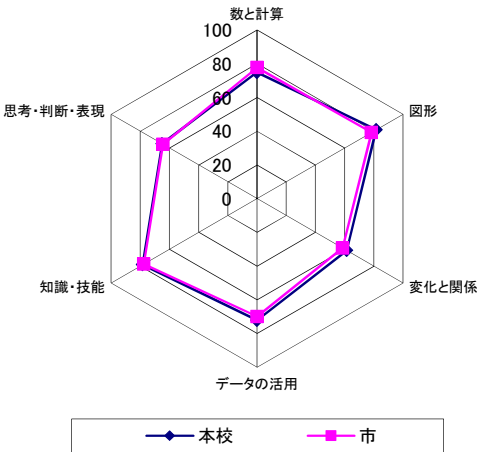
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は、市の平均と比べて高い。 ○日本周辺の海洋名の理解については、校内正答率は81.4%で市の平均正答率を7.1ポイント上回った。 ●季節風や太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る設問では、校内正答率は51.4%と市の平均正答率を4ポイント下回った。	・図や資料を正確に読み取り、活用する力を育むために、教科書の資料から社会的事象について考えたり、知識を深めたりする学習の充実を図る必要がある。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と比べて高い。 ○米の品質を高める工夫の理解に関する設問では、校内正答率は90.0%で、市の平均正答率を3.6ポイント上回った。 ●日本の主な食料の自給率に関する設問では、校内正答率は40.0%で、市の平均正答率を3.7ポイント上回ったが低い正答率であった。 ○輸入など外国との関わりに関する設問では、校内正答率は70.0%で、市の平均正答率を3.8ポイント上回った。	・自国の農業や産業と外国との関わりについて、ニュースなど身近なメディアを活用し、日頃から興味・関心をもたせるよう指導を行っていく。 ・食育指導とも絡めながら、米の品質について考えさせ、知識・理解を深めていく必要がある。
工業生産	平均正答率は、市の平均と比べ低い。 ●自動車の製造工程についての理解に関する設問は、校内正答率は、88.6%で市の平均正答率を1.6ポイント下回った。 ○自動車の部品を再利用する目的に関する設問は、校内正答率は、88.6%で市の平均正答率を1.7ポイント上回った。 ●日本の主な輸出品・輸入品に関する設問は、校内正答率は、52.9%で市の平均正答率を3.6ポイント下回った。	・表や資料を正しく読み取り、活用する力を育むために、算数科と横断的な学習を図りながら指導を行う必要がある。 ・一般に流通するさまざまな製品において、それらを効果的に普及するための工夫について考える学習を行い、知識・理解を深める必要がある。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均と比べやや高い。 ○産業における情報活用の現状に関する設問では、校内正答率は、81.4%で市の平均正答率を6.6ポイント上回った。 ●情報の発信と受信の注意点に関する設問では、校内正答率は、87.1%で市の平均正答率を5.8ポイント下回った。	・情報化した社会に関する学習については、今後の社会生活においても密接に関わることから、日頃より身近にあふれているさまざまなメディアに着目させ、関心をもたせるような指導を行っていく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均と比べ高い。 ○社会保障費に関して、租税の役割について、資料を読み取る設問の校内正答率は、77.1%で市の平均正答率を5.6ポイント上回った。 ○議会政治について、資料をもとに考え表現する設問では、校内正答率は、62.9%で市の平均正答率を9.9ポイント上回った。	・政治についての理解に関しては、歴史の学習とも関連させ、戦前から戦後にかけての歴史的背景にも触れながら説明を行い、成立までの流れを確認していく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と比べ高い。 ○縄文時代～平安時代に関する設問では、天皇中心の政治の様子や日本風の文化が生まれたころの様子についての設問の校内正答率は、82.9%で市の平均正答率を15ポイント上回った。 ○鎌倉時代、室町時代に関する設問では、どの設問も市の平均正答率を著しく上回った。	・各時代の主な出来事やくらしの様子について復習を行い、更なる知識の定着を図るとともに、資料を基に読み取ったことや歴史の流れとも関連させながら自分の言葉で説明する活動を意図的に設定していく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.9	77.7	78.6
	図形	81.6	78.4	74.4
	変化と関係	61.4	58.7	53.0
	データの活用	72.1	69.9	57.2
観点別	知識・技能	78.3	77.5	74.0
	思考・判断・表現	65.1	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

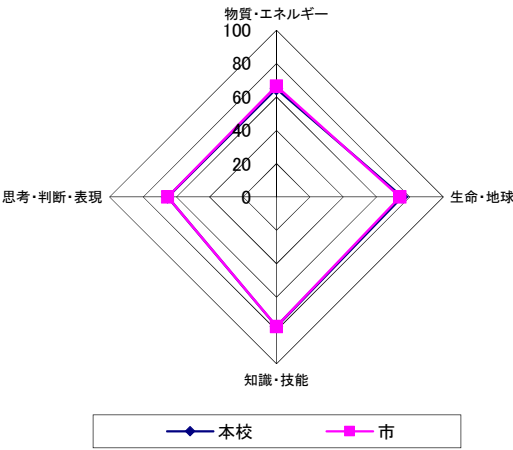
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より低い。 ○2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題において、平均正答率は78.6%で、市の平均正答率を7.1ポイント上回った。 ●真分数÷真分数(約分2回)の計算問題において、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率を8.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・様々な文章問題を解く機会を設け、問題から数量関係を図に表し、立式できるような技能を高めていく。 ・数量関係を自ら見出し、見出した関係がほかの場合でも成り立つか確かめる活動を設定する。
図形	平均正答率は市の平均より高い。 ○合同な三角形を作図する問題において、平均正答率は98.6%で、市の平均正答率を8.7ポイント上回った。 ●対称の中心についての問題において、平均正答率は92.9%で、市の平均正答率を1.5ポイント下回った。	・面積や体積、正多角形、合同な図形、対称な図形の問題に触れる機会を多く設け、知識・技能の定着を図る。 ・三角形の合同条件を復習し、合同な図形とともに、拡大図・縮図の作図にも応用できるようにする。
変化と関係	平均正答率は市の平均より高い。 ○表から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるプールを考える問題において、平均正答率は64.3%で、市の平均正答率を9.4ポイント上回った。 ●割引後の値段を求める式についての問題において、平均正答率は64.3%で、市の平均正答率を2.6ポイント下回った。	・問題場面から数量関係を図に表し、基準量・比較量・割合の関係を明らかにして数量関係を正確に捉えることを再確認させ、定着を図る。
データの活用	平均正答率は市の平均より高い。 ○平均から全体の量を推測する問題において、平均正答率は62.9%で、市の平均正答率を12.4ポイント上回った。 ●度数分布表を完成させる問題において、平均正答率は71.4%で、市の平均正答率を5.9ポイント下回った。	・円グラフや帯グラフから、データを読み取る機会を増やし、定着を図る。 ・代表値の意味や度数分布表の書き方を再確認する。 ・自分の考えを的確に説明することができるよう、言葉や式、図などを使ってを説明する活動を多く設定していく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.0	66.5	66.3
	生命・地球	75.3	74.0	72.6
観点別	知識・技能	77.6	77.6	78.2
	思考・判断・表現	65.2	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○「水よう液の性質」の設問では、未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する問題で市の平均正答率を10ポイント上回っている。 ●「物のとけ方」の設問では、校内正答率が全ての問題で市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。	・社会科や算数科とも関連付けるなど、教科横断的な学習を行い、グラフや表を読み取ったり考察したりする力を高めていく。
生命・地球	平均正答率は市の平均よりやや高い。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」の設問では、校内正答率が全ての問題で市の平均正答率を上回っている。 ○「植物のつくりとはたらき」の設問では、くきを縦に切ったときの断面のようすの理解は市の平均正答率を10ポイント上回っている。 ●実験から対照実験の目的を指摘する理解については市の平均正答率を6.6ポイント下回っている。	・実験の目的を明確にするとともに、変化させる条件についても考えさせるなどして、結果がもたらす意味について科学的根拠をもって考察できるよう指導を行っていく。

宇都宮市立陽南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の自己表現力を高める 言語活動の工夫	・各教科で小グループでの話し合いの活動を取り入れ、自分の考えと友達の考えとの違いや新たな考えに気付かせるようにする。	・「話し合いに進んで参加している」の肯定割合が、市の肯定割合を上回った学年が多かった。「考えを理由や根拠を挙げながら話す」の肯定割合についても、市の肯定割合を上回る学年が多かった。
基本的な学習習慣の確立	・「陽南学習のきまり」の振り返りを行い、基本的な学習習慣を身に付け、落ち着いて学習に取り組めるようにする。	・「授業の始まりには席に着く」「友達の話を聞く」「忘れ物をしない」などの基本的な学習習慣についての設問において、学年により差があるが、市の肯定割合を上回る項目が多かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学習内容定着度調査の結果だけではなく、国、県に関わるテストの結果を踏まえると、少人数グループでの言語活動の工夫により、進んで話し合ったり、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになった児童が多かった。一方で、「書く活動」において、根拠を明確にしながら表現することについては、課題が見られる。引き続き、学び合いの中での言語活動の工夫を取り入れた授業づくりを行い、課題の解決を図っていきたい。